



日産化学株式会社

2025年3月期 第1四半期決算説明

電話会議

説明者

取締役 専務執行役員 CFO 大門秀樹

2024年8月9日

大門：日産化学の大門でございます。それではご説明いたします。

2024年度1Q決算サマリー



1Q

業績予想比

(2024年5月発表予想との比較)

- 売上高は、25億円上ぶれ(+4%)
- 営業利益は、25億円上ぶれ(+21%)
- 純利益は、23億円上ぶれ(+25%)

1Q

前年同期比

- 売上高は、38億円増収(+7%)
- 営業利益は、6億円減益(-4%)
主要セグメント※1合計では1億円増益
- 純利益は、6億円減益(-5%)

※1 化学品、機能性材料、農業化学品、ヘルスケア

株主還元の状況

- 自己株式取得
5月13日発表の50億円に加えて、5月28日に追加50億円を発表
上限100億円、期間：2024年5月～2025年3月

業績予想

- 上期及び通期の業績予想は、2024年5月13日発表より変更なし

| 4

決算説明資料、4ページでございます。サマリーとしまして、冒頭に業績予想比がございますけれども、この1Qは5月発表の業績予想に対しましては、売上高で25億円の上ぶれ、営業利益は同じく25億円の上ぶれ、率に直しますとプラス21%となりました。純利益は23億円の上ぶれでございました。

また、前年同期比について、売上高は38億円の増収の一方、営業利益は6億円の減益ということでございますが、主要4セグメント合計では1億円の増益ということになっております。純利益は6億円の減益ということでございます。

株主還元の状況でございますが、自己株の取得につきましては、記載のとおり5月13日発表の50億円に加えまして、5月28日に追加50億円を既に発表済みでございまして、結果的に上限100億円、期間が5月から来年3月までということでアナウンス済みでございます。変更ございません。

また、業績予想でございますが当社は通常 1Q では修正しておりませんので、今回も、上期、通期の業績予想は 5 月に発表した時点から変更なし、ということにさせていただいております。

なお、5 月の業績予想のときに前提としておきました為替レートにつきましては、上期、ドル円で 145 円、下期は 140 円という前提で置いております。その数字を変えていないということでございます。

2024年度1Q決算サマリー 業績予想比



(億円)

	2024年度 1Q予想	2024年度 1Q実績	業績予想比
売上高	562	587	+25 (+4%)
営業利益	119	144	+25 (+21%)
営業外損益	3	16	+13
為替差損益	0	13	+13
経常利益	122	160	+38 (+31%)
特別損益	0	0	0
純利益 ^{※1}	93	116	+23 (+25%)
EBITDA ^{※2}	-	180	-
EPS(円/株)	-	83.78	-
売上高営業利益率	21.2%	24.6%	+3.4pt
為替レート(円/ドル)	145	156	-
原油(JCC)(^{ドル} /bbl) ^{※3}	82	88	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

| 5

具体的な数字は、次の 5 ページ、こちらは業績予想比でございますけれども、真ん中の列にございますように、売上高はこの 24 年度 1Q は 587 億円、営業利益で 144 億円、営業外損益は為替差益が 13 億円ほど出ましてプラス 16 億円、経常利益は 160 億円、純利益で 116 億円、EBITDA は 180 億円でございます。売上高営業利益率は 24.6%で、これは業績予想比で 3 ポイント強上昇しております。

この期中為替レートは 156 円でございます、業績予想では、先ほど申し上げましたとおり 145 円と見ておりましたが、11 円ほどドル高ということでございました。

2024年度1Q決算サマリー 前年同期比

(億円)

	2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	前年同期比
売上高	549	587	+38 (+7%)
営業利益	150	144	-6 (-4%)
営業外損益	20	16	-4
為替差損益	15	13	-2
経常利益	170	160	-10 (-6%)
特別損益	0	0	0
純利益 ^{※1}	122	116	-6 (-5%)
EBITDA ^{※2}	178	180	+2
EPS(円/株)	87.40	83.78	-3.62
売上高営業利益率	27.3%	24.6%	-2.7pt
為替レート(円/ドル)	137	156	-
原油(JCC)(ドル/bbl) ^{※3}	83	88	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

次の6ページは、前年同期比でして、後ほどご覧ください。

		2024年度 実績	業績予想	業績予想比	2023年度 実績	前年同期比
		144 億円	119 億円	+25 億円(+21%)	150 億円	-6 億円(-4%)
1Q	化学品	業績予想比 8億円上ぶれ 前年同期比 -2億円	固定費等 ^{※1} 下ぶれ(在庫変動影響が大半、増益要因)により利益上ぶれ テピック・高純度硫酸増収も、尿素・アドブルー減収及び固定費等増加により減益			
	機能性材料	業績予想比 15億円上ぶれ 前年同期比 +5億円	ディスプレイ下ぶれも、半導体・無機上ぶれにより利益上ぶれ ディスプレイ減収も、半導体・無機増収により増益			
	農業化学品	業績予想比 1億円下ぶれ 前年同期比 +3億円	グレースシア等上ぶれも、タルガ下ぶれ・固定費等上ぶれ(1億円、固定費下ぶれも在庫変動影響あり、減益要因)により利益若干下ぶれ グレースシア・フルララネル・パーミット等増収により増益			
	ヘルスケア	業績予想比 予想通り 前年同期比 -5億円	リバロ・ファインテック減収により減益、但しファインテックは2Qへ出荷後ろ倒し			

※1 固定費等には在庫変動影響を含む

続きまして、7ページ、いつものようにセグメントごとの営業利益の増減分析でございます。まず、化学品でございますけれども、業績予想比としては8億円の上ぶれ、ここは固定費等の下ぶれ、つまり利益サイドが大きかったわけでございますが、これは在庫変動影響が大半を占めております。これが増益要因として効いたということで、いわば一時的なものということでございます。

一方、前年同期比ではマイナス2億円ということで、テピックや高純度硫酸は増収になりましたが、尿素・アドブルーは減収、これはこの1月の能登半島地震の影響も少しございました。また、固定費等増加、これも実際は在庫変動影響が大半ですが、こういったものによりまして減益ということでございます。

続きまして、機能性材料ですが、業績予想比では営業利益で15億円の上ぶれ、ディスプレイは下ぶれましたが、半導体と無機が上ぶれまして、利益は大きく上ぶれました。前年同期比でもディスプレイは減収でございますが、半導体や無機が増収となった結果、プラス5億円の増益でございます。

また、農業化学品でございますが、業績予想比で若干の下ぶれとなりました。グレースシア等の上ぶれもありましたが、タルガの下ぶれ、また固定費等は1億円ですけれども上ぶれとなり費用サイド

となりました。この固定費等の1億円というのは、純粋な固定費自身は下ぶれましたが、在庫変動影響が若干費用サイドにあったということで、1億円の減益要因になっております。

一方、前年同期比ではプラス3億円の増益ということで、グレーシア、フルララネル、あるいはパーミットといったものの増収が寄与しております。

最後に、ヘルスケアでございますが、業績予想比では予想通りということでございますが、前年同期ではマイナス5億円。これは、リバロの減収による減益、一方、ファインテックにつきましては2Qへの出荷の後ろ倒し等もございまして、この1Qについては減収ということになりました。

営業外損益・特別損益の内訳



	2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	前年同期比	(億円) 2024年度 1Q予想
受取利息・配当金	2.9	2.9	0.0	3.0
持分法投資損益	5.4	1.3	-4.1	1.7
為替差損益※1	14.8	12.7	-2.1	0.0
支払利息	-1.2	-1.8	-0.6	-2.0
固定資産処分損他	-1.4	0.9	+2.3	0.3
営業外損益	20.5	16.0	-4.5	3.0
特別利益	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益	0.0	0.0	0.0	0.0

※1 為替レート(円/ドル): 23/3末 133.54、23/6末 144.99、24/3末 151.40、24/6末 161.14

| 8

次の8ページでございますが、営業外損益、特別損益の内訳ということで、1Qにつきましては、真ん中の左から三つ目の列にございますとおりの数字でございます。結果的に、営業外損益ではYoYでマイナス4.5億円、これは一方で業績予想比に対しましては13億円の増えということになります。また、特別損益につきましては記載のとおりございません。

なお、3月末、6月末の為替レート、ドル円につきましては、下の注1に記載のとおりでございます。

2024年度1Q実績のフリー・キャッシュ・フローは125億円となり、前年同期比53億円の増加

(億円)

	2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	123	153	+30
税金等調整前純利益	171	160	-11
特別損益(マイナスは益)	0	0	0
減価償却費※1	28	36	+8
法人税等の支払	-74	-47	+27
運転資金増減他	-2	4	+6
投資活動によるキャッシュ・フロー	-51	-28	+23
設備投資※2	-66	-32	+34
投資有価証券購入・売却	0	-1	-1
その他	15	5	-10
フリー・キャッシュ・フロー	72	125	+53
財務活動によるキャッシュ・フロー	-106	-17	+89
株主還元(配当)	-132	-130	+2
株主還元(自己株式取得)	-50	-41	+9
有利子負債増減	76	164	+88
その他	0	-10	-10
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	1	-1
現金及び現金同等物の増減額	-32	110	+142
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	0	0
現金及び現金同等物の残高	265	338	+73

※1 のれん償却費を含む ※2 無形資産を含む

| 9

続きまして9ページ、キャッシュ・フローでございますけれども、冒頭に記載のとおり、フリー・キャッシュ・フローとしては125億円ということで、前年同期比で53億円の増加となりました。

現預金の数字につきましても、最下段でございますとおり約340億円ということで、引き続き潤沢な現預金を持っております。

また、株主還元につきましては少し上でございますが、配当・自己株取得とも、ほぼ去年並みということでございます。

貸借対照表

(億円)

	2023年6月末	2024年3月末	2024年6月末	前期末比		2023年6月末	2024年3月末	2024年6月末	前期末比
流動資産	1,846	2,020	2,122	+102	負債	833	925	1,087	+162
現預金	264	227	338	+111	買入債務	174	204	198	-6
売上債権	778	888	858	-30	借入金	374	410	474	+64
たな卸資産	716	782	833	+51	その他	285	311	415	+104
その他	88	123	93	-30	純資産	2,181	2,310	2,271	-39
固定資産	1,168	1,215	1,236	+21	株主資本※1	2,029	2,140	2,085	-55
有形固定資産	721	774	788	+14	その他有価証券評価差額金	81	83	85	+2
無形固定資産	114	107	108	+1	為替換算調整勘定	34	42	54	+12
投資有価証券	276	261	265	+4	非支配株主持分	35	34	37	+3
その他	57	73	75	+2	退職給付に係る調整累計額	2	11	10	-1
資産合計	3,014	3,235	3,358	+123	負債純資産合計	3,014	3,235	3,358	+123
					自己資本比率	71.2%	70.3%	66.5%	
					D/Eレシオ※2	5.4%	8.6%	6.5%	

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2023年6月末	2024年3月末	2024年6月末	前期末比	参考
上場株式※3	174	171	175	+4	300
(単体ベース保有銘柄数)	(26)	(24)	(24)	(0)	(55)
非上場株式	26	23	23	0	17
関係会社株式	76	67	67	0	68
合計	276	261	265	+4	385
純資産に占める 政策保有株式の割合※4	8.3%	7.7%	7.9%		17.0%

※1 株主資本増減 -55 = 純利益116 - 配当その他171 ※2 D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本

※3 24/3末 171 + 取得0 + 評価差額4 = 24/6末 175 ※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株 + 非上場株) / 純資産(連結ベース)

| 10

10 ページ、今度はバランスシートでございます。左上にございますように、資産サイドで言いますと、資産合計で、3 月末比で 123 億円の増加、このうち現預金、それからたな卸資産の増加が目立ちます。

一方、負債サイドで言いますと、右にございますが、負債のその他でプラス 104 億円ございますが、これは 6 月半ばに普通社債を発行した 100 億円、それがそのまま乗っかっているということでございます。

自己資本比率につきましては右下にございますように 66.5%ということで、若干下がっておりますけれども、D/E レシオ、引き続き一桁%台ということで、健全な財務体質を維持していると理解をしております。

左下、投資有価証券の内訳でございますが、一番下にございますように、純資産に占める政策保有株式の割合は、この 6 月末に 7.9%ということでございまして、引き続き 10%を切っている水準をキープできているということでございます。

セグメント別 2024年度1Q決算 前年同期比

(億円)

		2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	前年同期比
化学品	売上高	91	89	-2 (-2%)
	営業利益	9	7	-2 (-28%)
機能性材料	売上高	208	235	+27 (+13%)
	営業利益	65	70	+5 (+9%)
農業化学品	売上高	188	204	+16 (+8%)
	営業利益	66	69	+3 (+5%)
ヘルスケア	売上高	20	15	-5 (-25%)
	営業利益	11	6	-5 (-44%)
卸売・その他・調整額	売上高	42	44	+2
	営業利益	-1	-8	-7
合計	売上高	549	587	+38 (+7%)
	営業利益	150	144	-6 (-4%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京バイ・NCアグロ函館（農業製品の製造。2024年度より連結子会社化）・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか（内訳はp50,p51参照）

次に、セグメント別の数字でございますが、12 ページは前年同期比でございます。

セグメント別 2024年度1Q決算 業績予想比

		(億円)		
		2024年度 1Q予想	2024年度 1Q実績	業績予想比
化学品	売上高	91	89	-2 (-2%)
	営業利益	-1	7	+8 (-)
機能性材料	売上高	221	235	+14 (+6%)
	営業利益	55	70	+15 (+28%)
農業化学品	売上高	199	204	+5 (+2%)
	営業利益	70	69	-1 (-1%)
ヘルスケア	売上高	18	15	-3 (-19%)
	営業利益	6	6	0 (+2%)
卸売・その他・調整額	売上高	33	44	+11
	営業利益	-11	-8	+3
合計	売上高	562	587	+25 (+4%)
	営業利益	119	144	+25 (+21%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・NCアグロ函館(農業製品の製造。2024年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp50,p51参照)

| 13

また、13 ページは業績予想比でございます。営業利益につきまして、先ほど申し上げましたように機能性材料がプラス 15 億円、率に直しますと予想比で 28%増と、上ぶれということになっております。ひとえに半導体あるいは無機といったところが、堅調だったということになります。

【1Q】売上高-2億円、営業利益-2億円

	2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	前年同期比
売上高	91	89	-2
ファインケミカル	30	31	+1
基礎化学品	61	58	-3
営業利益	9	7	-2

【1Q】増収・増益		【1Q】減収・減益		
ファインケミカル	テピック一般	+61%増収(数量増)	尿素・アドブルー®	-26%減収 (震災影響による在庫水準減で出荷減)
	テピック電材	+28%増収	高純度硫酸	+36%増収(数量増、価格上昇)
	環境化学品	-11%減収	硝酸製品	-4%減収
	ファインオキシコール	-3%減収		
		基礎化学品		

次は化学品でございますけれども、15 ページまで飛びます。これは 1Q の前年同期比をお示ししております。冒頭でございますように、売上高、営業利益それぞれ 2 億円の減収減益ということでございますが、先ほど少し触れましたように、ここには記載ございませんけれども、在庫変動影響が費用サイドで出ておりまして、ほぼその分での営業利益のマイナス 2 億円ということになります。

具体的には左下、ファインケミカルでございますけれども、ここは増収増益でございます。テピックの一般が数量増もございましてプラス 61%の増収。また電材もプラス 28%ということで、テピックは前年対比で見ますと少しずつ増収基調に回復しているということでもあります。

一方、基礎化学品は、右にございますとおり減収減益でございました。特に尿素・アドブルーはマイナス 26%減収ということで、先ほど少し申し上げました、能登半島地震の影響によりまして、どうしても通常より在庫水準が少なくなりまして、出荷が減った影響でございます。

一方、高純度硫酸はプラス 36%の増収ということで、数量、価格とも上昇しているということでございます。

【1Q】売上高-2億円、営業利益+8億円、
 固定費等下ぶれ8億円(在庫変動影響が大半を占める、増益要因)
 (億円)

	2024年度 1Q予想	2024年度 1Q実績	業績予想比
売上高	91	89	-2
ファインケミカル	31	31	0
基礎化学品	60	58	-2
営業利益	-1	7	+8

【1Q】売上高予想通り、営業利益上ぶれ

ファインケミカル	
テピック一般	売上高上ぶれ
テピック電材	売上高上ぶれ
環境化学品	売上高下ぶれ
ファインオキシコール	売上高下ぶれ
固定費等下ぶれ2億円(増益要因)	

【1Q】売上高下ぶれ、営業利益上ぶれ

基礎化学品	
尿素・アドブルー®	売上高下ぶれ
高純度硫酸	売上高上ぶれ
硝酸製品	売上高下ぶれ
固定費等下ぶれ6億円(増益要因)	

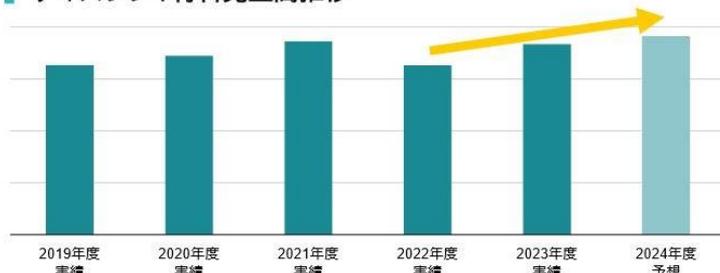
次に 16 ページでございます。これは業績予想比ということで、売上高で 2 億円の 下ぶれ、営業利益ではプラス 8 億円の 上ぶれということですが、先ほど申し上げましたように、固定費等の 下ぶれ、特に在庫変動影響が大半を占めるわけですけれども、ここが増益要因ということになっております。具体的には、この定修前の生産が年初計画よりも少し大きかったことから、このような一時的なプラスが出たということでございます。

ファインケミカル、基礎化学品、それぞれ主要製品については下にございますように、ファインで言えばテピックが上ぶれ、一方で、基礎化学品で言えば尿素・アドブルーは下ぶれですが、高純度硫酸は上ぶれということでございます。

機能性材料サブセグメント売上高構成(2023年度実績)

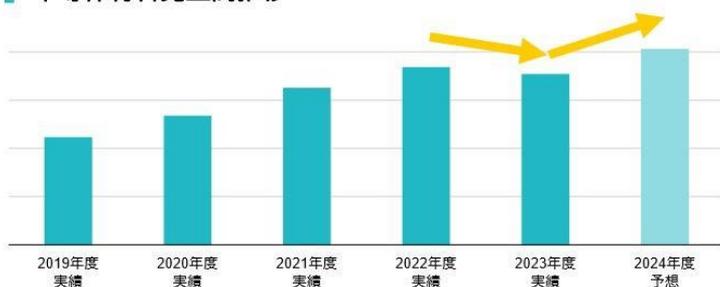


ディスプレイ材料売上高推移



- 2022年度を底として市場回復
- 他モード(ラビングIPSなど)から光IPSへの転換は順調に進む

半導体材料売上高推移



- 2023年度は一時的な調整局面にあったが、足元の市場の回復傾向は今後も継続の見通し
- 中長期での成長トレンドは不変
- EUV材料は顧客生産増により伸長

続きまして、機能性材料にまいります。19 ページまで飛びます。こちらのグラフは年度単位の数値ですのでこの1Qでは変えておりませんが、ディスプレイで言えば、2022 年度を底として、市場は回復しているということは非常に明らかだということですし、光 IPS への転換は順調に進んでおります。

また、半導体につきましては、右下にございますように一時的な調整局面が 2023 年度はございましたが、足元、市場の回復傾向は今後も継続の見通しということで、中長期での成長トレンドは不変、また EUV 材料につきましても伸長しているということに変わりはありません。

- ディ스플레이材料は、1Qで前年同期比4%減収、業績予想比でも下ぶれ、前四半期比では増収
- 半導体材料は、1Qで前年同期比33%増収、業績予想比でも上ぶれ、前四半期比でも増収
- 無機コロイドは、1Qで前年同期比12%増収、業績予想比でも上ぶれ

主要製品	2024年度 1Q実績	
	前年同期比	業績予想比
サンエパー	-4%	下ぶれ
ディスプレイ材料合計	-4%	下ぶれ
ARC®	+22%	上ぶれ
多層材料	+59%	上ぶれ
EUV材料※1	+42%	上ぶれ
半導体材料合計	+33%	上ぶれ
無機コロイド合計	+12%	上ぶれ
機能性材料セグメント合計	+13%	上ぶれ

※1 EUV材料: EUV向け下層膜とSi-HMの合計

具体的な数字は 20 ページ、まず、主要製品の売上高の成長率でございます。下に表がございますけれども、ディスプレイにつきましては上部に記載のとおり、1Q は前年同期比で 4%の減収、また業績予想比でも下ぶれました。ただし、QoQ で見ますと増収ということになっております。

後ほど詳細は申し上げますが、特にスマホ向けで、当初の予想よりも一時的に少し下に出たということでございます。

一方、半導体は 1Q で前年同期比プラス 33%、下に数字が並んでおりますけれども、ARC、多層材料、また EUV 材料とそれぞれ相当な伸びを示しているということで、また業績予想比でも上ぶれ、QoQ でも増収ということになっております。

無機コロイドについても堅調でございまして、YoY でプラス 12%という売上でございますし、また業績予想比でも上ぶれたということでございます。

【1Q】売上高+27億円、営業利益+5億円、固定費等増加合計12億円

	(億円)		
	2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	前年同期比
売上高	208	235	+27
営業利益	65	70	+5

【1Q】減収・減益

ディスプレイ	光IPS	減収 (スマホ向け減収、モニター・車載向け増収)
	ラビングIPS	減収
	VA	横ばい
	固定費等増加1億円	

【1Q】増収・増益

半導体	ARC®	増収
	多層材料	増収
	EUV材料	増収
先端世代を中心に半導体市場回復、固定費等増加11億円		

【1Q】増収・増益

無機 コロイド	スノーテックス(一般用途・研磨剤)、 オルガノ・モノマーゾル増収
------------	-------------------------------------

| 21

次に 21 ページ、ここが前年同期比でございまして、セグメント全体としては売上高で 27 億円の増収、また営業利益では 5 億円の増益ということでございます。

固定費等増加 12 億円と書いてございますけれども、ここはご案内のとおり、特に半導体の韓国での第 2 工場建設から来る減価償却等の増加、これが 12 億円のうちのほぼ全てを占めております。

左下、ディスプレイにつきましては、先ほど申し上げましたように光 IPS、ここはスマホの減収が少し響きまして減収となりましたが、モニターあるいは車載向けといったところは、ここは 2 桁増を示しております。また、ラビング IPS は減収、また VA は横ばいということになりました。

一方、半導体は増収増益ということでございまして、先端世代を中心に市場が回復してきています。また無機につきましてもスノーテックス、一般用途、また研磨も堅調で増収増益になっております。

【1Q】売上高+14億円、営業利益+15億円、固定費等下ぶれ合計5億円(増益要因)

	2024年度 1Q予想	2024年度 1Q実績	業績予想比
売上高	221	235	+14
営業利益	55	70	+15

【1Q】売上高・営業利益とも下ぶれ

ディスプレイ	光IPS	売上高下ぶれ (スマホ・モニター向け下ぶれ)
	ラビングIPS	売上高上ぶれ
	VA	売上高予想通り
	固定費等下ぶれ1億円(増益要因)	

【1Q】売上高・営業利益とも上ぶれ

半導体	ARC®	売上高上ぶれ
	多層材料	売上高上ぶれ
	EUV材料	売上高上ぶれ
先端世代を中心に半導体市場回復、 固定費等下ぶれ3億円(増益要因)		

【1Q】売上高・営業利益とも上ぶれ

無機コロイド	スノーテックス(一般用途・研磨剤)、 オルガノ・モノマーソル売上高上ぶれ
--------	-----------------------------------------

22 ページ、ここは機能性材料の業績予想比でございますが、冒頭に書いてあるとおり、売上で14億円の上ぶれ、営業利益で15億円の上ぶれ、また固定費等も、これは5億円の下ぶれということで増益要因となりました。このうち、純粋な固定費と在庫変動影響、それぞれ少しずつ増益要因となっております。

ディスプレイでございますが、左下でございますように、売上高は下ぶれということで、特にスマホ、またモニター向けも相当強めに見込んでおりましたが、この1Qにつきましては少し下ぶれたということになります。一方、ラビングIPSは2桁%の上ぶれとなりました。VAは予想通りでございます。

結果的に、ディスプレイは売上、営業利益とも下ぶれということでございますが、一方、半導体は大きく売上、営業利益とも上ぶれました。また、無機につきましても同様に売上、営業利益とも上ぶれております。

■ 1Qで8%増収、業績予想比でも上ぶれ

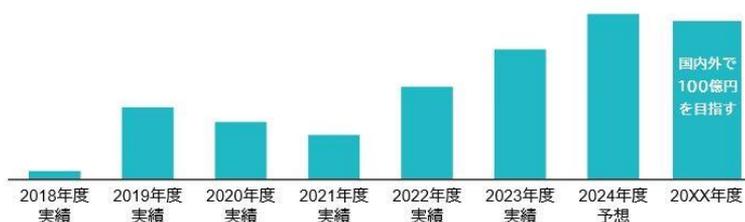
主要製品名 (農業:2023年度売上高順)	種類	2024年度 1Q実績	
		前年同期比	業績予想比
ラウンドアップ ^{※1}	除草剤	-1%	予想通り
アルテア	除草剤	+21%	上ぶれ
グレーシア	殺虫剤	+44%	上ぶれ
タルガ	除草剤	-55%	下ぶれ
ダイセン	殺菌剤	-20%	下ぶれ
パーミット	除草剤	+69%	上ぶれ
ライメイ	殺菌剤	+121%	上ぶれ
動物薬 フルララネル	動物薬	+11%	予想通り
セグメント合計 ^{※2}	-	+8%	上ぶれ

参考

ラウンドアップの現状説明会資料 [☑](#)
 (2020年1月22日発表)
 農業化学品事業説明会資料 [☑](#)
 (2022年9月28日発表)

※1 ラウンドアップALは、2024年度1Q実績のラウンドアップ売上高全体の34%を占める
 ※2 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む

■ グレーシア売上高



続きまして、農業化学品でございます。24ページまで飛びます。1QにつきましてはYoYで8%の増収ということになりました。また、業績予想比でも上ぶれということでございます。

前年同期比ではマイナス、プラスが並んでおりますけれども、前年同期比で増収となりましたのは、アルテア、グレーシア、それからパーミット、ライメイといった辺りでございますが、一方、タルガ、ここはマイナスでございました。

また、動物薬フルララネルにつきましては業績予想通りでございますけれども、YoYとしては11%の増収となっております。

【1Q】売上高+16億円、営業利益+3億円、固定費等増加8億円

	(億円)		
	2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	前年同期比
売上高	188	204	+16
営業利益	66	69	+3

主要製品	製品名	変動
	ラウンドアップ(除草剤)	横ばい
	アルテア(除草剤)	増収(国内:拡販)
	グレーシア(殺虫剤)	増収(輸出:アジアでの拡販)
	タルガ(除草剤)	減収(輸出:23年度へ出荷前倒し、欧州での流通在庫影響)
	ダイセン(殺菌剤)	減収(輸出:一部出荷後ろ倒し)
	パーミット(除草剤)	増収(輸出:アジアでの需要増により増収)
	ライメイ(殺菌剤)	増収(輸出:欧州での需要増により増収)
	フルララネル(動物薬)	増収(原薬出荷横ばい、ロイヤリティ増収、一部円安影響あり)

| 25

具体的に次、25 ページは前年同期比をお示ししております。売上高で 16 億円の増収、営業利益では 3 億円の増益ということでございますが、固定費等の増加で 8 億円、これはほとんど全て純然たる固定費の増加でございます。以前少し申し上げたかもしれませんが、いろいろな形の広告宣伝費、あるいは一部新しく連結対象に加えました NC アグロ函館という会社の新規連結分による固定費の増加、またインドの工場である NBR、ここでの償却も 1 年前に比べますと少し増えたということ。

また、国内の工場につきましても、既にベルダーという旧 NC-653、これが今年上市になるということで、これに対します設備投資の償却コストも少し増えております。

主要製品で言えば下に記載のとおり、先ほど申し上げましたアルテアやグレーシアはアジアでの拡販で増収。一方、タルガにつきましても 23 年度への出荷前倒しもございました関係、また欧州での流通在庫影響を一部受けているということで、ここは減収でございます。

また、パーミット、ライメイはここに記載のとおり、需要増による増収ということ。フルララネルにつきましても、原薬出荷は前年度並みということですが、ロイヤリティにつきましても一部為替、円安影響もありまして増収ということでございます。

【1Q】売上高+5億円、営業利益-1億円、
 固定費等上ぶれ1億円(固定費下ぶれも在庫変動影響あり、減益要因)

(億円)

	2024年度 1Q予想	2024年度 1Q実績	業績予想比
売上高	199	204	+5
営業利益	70	69	-1

主要製品	製品名	売上高
	ラウンドアップ(除草剤)	売上高予想通り
	アルテア(除草剤)	売上高上ぶれ
	グレーシア(殺虫剤)	売上高上ぶれ(輸出:アジアでの拡販)
	タルガ(除草剤)	売上高下ぶれ(輸出:23年度へ出荷前倒し、欧州向け下ぶれ)
	ダイセン(殺菌剤)	売上高下ぶれ(輸出:一部出荷後ろ倒し)
	パーミット(除草剤)	売上高上ぶれ(輸出:アジアでの需要増により上ぶれ)
	ライメイ(殺菌剤)	売上高上ぶれ(輸出:欧州での需要増により上ぶれ)
	フルララネル(動物薬)	売上高予想通り

26 ページ、ここは業績予想比になりますけれども、売上高で言いますと 5 億円の上ぶれ、営業利益はマイナス 1 億円、若干の下ぶれということですが、固定費等が 1 億円上ぶれまして、こちらが費用サイドに出ました。

この固定費等の中身ですが、純粋な固定費自体は下ぶれでございましたが、在庫変動影響が逆に減益要因ということで、ネットすると 1 億円の上ぶれ、費用サイドということになっております。

それぞれ主要製品ごとについては、先ほど YoY で申し上げたこととほとんど変わっておりません。後ほどご覧ください。

以下、27 ページから、31 ページまでは 5 月の発表とほとんど変わっておりませんので割愛をいたします。後ほどご覧ください。

【1Q】売上高-4.8億円、営業利益-4.8億円

	2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	前年同期比
売上高	19.5	14.7	-4.8
ヘルスケア	6.1	2.8	-3.3
ファインテック	13.4	11.9	-1.5
営業利益	10.9	6.1	-4.8
ヘルスケア	2.8	0.3	-2.5
ファインテック	8.1	5.8	-2.3

(億円)

※ p7,12,p13,p50,p51では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

【1Q】減収・減益

ヘルスケア

リバロ

減収(国内・輸出とも減収)

【1Q】減収・減益

ファイン
テック24年度2Qへ出荷後ろ倒し
固定費等増加

| 34

最後にヘルスケアでございますが、34 ページまで飛びます。前年同期比で申し上げますと、売上、営業利益とも約5億円弱の減収減益ということになっております。リバロの減収、これは国内・輸出とも同じような形で減収でございましたが、ファインテックにつきましては2Qへの出荷の後ろ出しという影響もございました。また、固定費等の増加も若干ございました関係で減益ということになっております。

【1Q】売上高-3.0億円、営業利益予想通り

	2024年度 1Q予想	2024年度 1Q実績	業績予想比
売上高	17.7	14.7	-3.0
ヘルスケア	2.6	2.8	+0.2
ファインテック	15.1	11.9	-3.2
営業利益	6.1	6.1	0.0
ヘルスケア	0.5	0.3	-0.2
ファインテック	5.6	5.8	+0.2

(億円)

※ p7,12,p13,p50,p51では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

【1Q】売上高上ぶれ、営業利益下ぶれ

ヘルスケア

リバロ

売上高上ぶれ(国内予想通り、輸出上ぶれ)

【1Q】売上高下ぶれ、営業利益上ぶれ

ファイン
テック

24年度2Qへ出荷後ろ倒し

固定費等下ぶれ(増益要因)

| 35

一方、業績予想比では 35 ページにございますとおり、営業利益としては予想通りで着地をしております。内訳は、下のヘルスケア、ファインテック、それぞれ記載のとおりでございました。

GHG排出量の削減

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、従来の取り組みに加え、生産技術の改善や再生エネルギー導入などに注力する
- GHG排出量2027年度目標:2018年度比30%削減(SCOPE1+2)



他社とのGHG排出量の比較

年度	2011	2018	2019	2020	2021	2022
日産化学(単体ベース)	448	363	327	318	345	328
大手総合化学4社平均(連結ベース)	-	-	9,275	8,928	9,226	8,390

中期経営計画 Vista2027

(2022-2027年度)における取り組み

- 硝酸プラントからのN₂O排出ゼロ (予定投資額 500百万円 変動費50百万円/年)
- メラミン製造中止
- 小野田工場燃料転換
- ICP本格導入によるGHG排出削減推進
- フロン機器の削減
- 省エネ機器への更新

| 40

最後に、ESG トピックスでございます。40 ページに飛びまして、GHG の排出量のところだけ、ご説明いたしますと、23 年度実績につきましては、下のグラフでございますように 28 万 5 千トンということで、前年対比で減少をしております。

27 年度目標は 18 年度比で 30%でございますので、ここに向かって右下にあるような取り組みを実施しているということでございます。

長くなりましたが、私からは以上でございます。

質疑応答

<質問者 1>

Q：サンエバーの1Q実績について、市場の環境と比べると結構弱い印象を受けました。先ほど一時的な下ぶれというお話もありましたが、この辺りの背景と、2Q以降の見方を教えてください。併せて、半導体材料についても、2Q以降の見方を教えていただけますでしょうか。

A：サンエバーの1Qに関しては、光IPSのスマホ向けおよびモニター向けがやや不調でしたが、こちらは足元の状況も踏まえて2Q以降数字が戻ってくると考えています。やはり1Qの下ぶれは一時的なものと認識しています。1Qが不調であった理由は、スマホに関しては一部OLEDへのシフトはあるのですが、それに加えて、パネルメーカーあるいはパネルの流通の部分で、在庫調整があったのではないかというような推測も立てております。

モニターに関しては光配向の材料が使われるハイエンド向けで一部生産調整があったのですが、こちらあまり長期化はしないという顧客情報を得ておりますので、2Q以降の業績に関しては特に大きな心配はしておりません。

半導体材料の2Q以降に関してですが、1QではAIへのマーケットを中心に、先端向けのロジック、メモリーともかなり回復をしまして、この傾向というのは2Q以降も継続していくという予測でおります。

Q：ありがとうございます。次に、農薬の国内外の今の事業環境についてご説明いただけますでしょうか。

A：まず、国内ですけれども、業界の状況は地域別にプラスマイナスがあると思いますが、当社におきましては前年同期比で、全体的に好調に推移をしております。

海外におきましても、市場全体としては恐らく、若干の緩やかなプラスにはなっているとは思いますが、当社につきましても、製品によってはプラスマイナスはありますけれども、どの地区でもおおむね順調に推移している状況でございます。

<質問者 2>

Q: 一つ目ですが、化学品のところでお伺いさせていただきます。1Qの売上はテピックの一般で+61%、電材も+28%の増収ということで、全般回復傾向にあります。この状況は、2Q以降も続くのでしょうか。

併せて、これは来期の話になると思いますが、ビジネスモデルの再検討と構造改革というのを以前おっしゃっていたと思います。これに対しては予定どおり進めていくのかどうかもご教示ください。

A: まず、テピック一般、電材等の1Qの増収といったことに関しましては、特にテピック一般では北米の顧客在庫が過剰だったものが、少し解消が進んでいる影響で、数量増になったと感じております。底を脱した感はありますけれども、中国勢の販売攻勢というのは引き続き続いておりまして、2Qにかけてこのまま行くかという、そこはまだまだ予断を許さないといったところかと思っております。

テピック電材につきましても増収となっておりますが、需要としてはまだ少し弱さを感じるというところがございます。

構造改革については、今まだ社内ですべての検討を進めているというところがございます。

Q: ここは予定どおり構造改革的なものを進めていくということでよろしいですか。

A: はい。そのとおりでございます。

Q: それと、2Qの見方ですけれども、もともとの計画ですと1億円の赤字が1Q、2Q続くような予定になっていたと思うのですが、ここはどうでしょうか。2Q、予定どおり1億円の赤字という感じでしょうか。

A: 今まだ8月始まったばかりですので、確定的なことは言えません。一つははっきりしているのは、先ほど申し上げました在庫の影響です。1Qで、YoYでプラス8億円というのが、恐らく2Qには逆サイド、費用サイドに出ると思います。ですから、今のところはもともとの上期の予算をクリアしていくことを目指していくということかなと思っています。

Q: なるほど。2Qにまた赤字化する可能性はあるかなという感じですね。

A: もともと2Qは定修期間ですので、例年赤字になることが多いです。ここは例年と変わらずということかなと思っています。

<質問者 3>

Q：半導体材料に関してですが、1Q は前年同期比で 33%増収と非常に伸びていまして、もともと 1Q は 13%増収の計画だったかと思imasので、かなり上ぶれていたかと思imas。

EUV の伸びもさることながら、計画対比ですと ARC や多層材料がかなり上ぶれてきていまして、その背景をどのようにご覧になっていらっしゃるのか、上ぶれの理由について教えていただきたいのと、あと半導体材料全般として、特にどの地域で伸びてきているのか。中国向けで伸びてきているようにも思うのですけれども、その辺りを教えていただけますでしょうか。

A：1Q の上ぶれですが、マーケットの状況としましては、先ほどの質問にもお答えしたとおり、AI 向けの市場が伸びており、これが EUV 材料や多層材料の伸びを大きく牽引しております。

地域別には、韓国、台湾といった先端を中心に伸びてはいるのですが、中国も含めまして、全体として上ぶれといった傾向でございます。

Q：ありがとうございます。中国向けのところだと、他の半導体材料ではやや中国のローカルメーカーが台頭してきているような話も聞くのですけれども。ARC や多層材料に関してはそういったことはほとんど起きていないと思ってよさそうでしょうか。

A：お客様のほうでローカル品の評価というのは進めているという情報は入っておりますが、今のところ当社品のシェアというのはキープできている状況でございます。

Q：1Q の増収率が他社の半導体材料に比べてもかなり高く、計画対比の上ぶれ度合いも高いので、単に市場が良かっただけだと、いまいち腑に落ちないのですけれども。何か一時的に出荷が大きく増えた要因があるのでしょうか。

あと、かなり高いシェアを ARC でお持ちの中で、レガシー半導体の低調の影響もあったのかなと思うのですけれども、それが数字上全然見えなくて、その辺り、もう少し解説をいただけないでしょうか。

A：一部の製品で 1Q への出荷前倒しというのはございまして、その寄与はあったかなと思imas。

Q：シェアの上昇のようなものが想定以上に効いている部分はありますか。

A：シェア自体はそこまで大きくは変わってはいないですが、引き続き高いシェアをキープできているといった状況にはございまします。

Q: 分かりました。ありがとうございます。次は農薬について教えてください。こちらも計画に対して上ぶれています。24 ページのところで、それぞれの製品の上ぶれ、下ぶれを載せていただいでいて、26 ページで定性的なご説明をいただいておりますが、もう少しそれぞれ主要製品について詳細な内容をいただけますでしょうか。特にグレーシアとライメイとアルテア辺りを気にしております。

マーケットの環境としては特に海外はあまりよくなかったと思うのですけれども、そういった中で上ぶれできた理由。あと、コンテナ船不足の影響などは、特に御社に関しては生じなかったのかという点も含めて、お願いいたします。

A: まず、グレーシアですけれども、国内は大型規格を中心に出荷が好調でした。また、海外の部分もインドを含めたアジア向け、こちらの出荷が好調という形で進んでおります。

ライメイにつきましては、昨年度欧州のところで出荷が少し滞っていた部分がありましたが、今年度はジャガイモの需要増がありまして販売が増加しております。

あとはアルテアですけれども、一部期ずれの部分がありますが、順調に今年度、拡売を進めプラスになっています。

あと、当社の場合は輸送船の影響は、さほどなかったと考えております。

Q: グレーシアに関して、他社がコンテナ船で特に苦戦している中で、御社がシェアを増やしたという面はありそうでしょうか。

A: 他社がどの程度コンテナ船でマイナスをこうむっているかが分かりかねる部分もあるので、一概にそれでグレーシアが伸びたとは考えておりません。出荷国の増加等により、グレーシアが好調に伸びていると考えております。

<質問者 4>

Q: 1 点目、フルララネルに関して、川下のほうで一部の動物薬で在庫調整が生じていると聞いております。その辺り、フルララネルについて、今の在庫水準がどうなっているのかを確認させてください。

また、米国の特許延長の状況についても含めてアップデートいただけますでしょうか。

それから、ブラベクトの注射剤、順次展開されていくかと思えますけれども、その辺りの注射剤に向けてのフルララネルの取り込みについては既に始まっているのか、何か業績を押し上げるような期待ができそうなのか、お願いいたします。

A: Merck 社の在庫については、当社がそこまではっきり分からないわけですが、少なくとも当社の原薬自身は、彼らが過度に持っていることはないだろうと見ております。われわれのフルララネルという原薬の在庫が、彼らのサイドにたまっていることはないだろうと思っています。

今後ですけれども、当社の原薬の出荷についても、2Q 以降も引き続き堅調な数字になるのではないかなという感じは持っておりますけれども、まだ期の途中ですので明言はできませんが、印象としてはそのように考えています。

特許延長につきましては、アップデートは特になく、米国は引き続き今協議中ということで、そこはわれわれとしてはそれほど実は心配はしていないわけですが、ファクトとしては引き続き協議中だということは変わっておりません。

注射剤につきましては、欧州で今年の 1 月に承認が取れ、その後も承認見込みの国はありますが、まだはっきりとしたことはお答えできないような状況でございます。

Q: ありがとうございます。次に、ディスプレイ材料について。基本的には 1Q で計画から下ぶれたというのは一時的なものだと理解いたしました。一方で、少し OLED 化のシフトが早いようにも感じておまして、その辺りの御社の今のご認識、OLED 化に対する御社のご認識、想定から少し早いと感じられているのかどうか。あと光比率の進捗に何か変化がないかどうか、それから、スマホとモニターについてはコメントいただいたのですが、タブレット、ノート PC、車載向けなどについては、ご想定に対してどういった進捗だったのか、その辺りご解説いただけますでしょうか。

A: おっしゃるとおりスマホの OLED 化は確かに進行しております。昨年度に比べて、やはり LCD が減っているのは事実ではございます。一方で、1Q は OLED シフトだけではなく、先ほど申し上げたとおり、何らかの在庫調整も含めて過剰に当社材料は弱く出ていたのですが、2Q でそこが戻ってくるという手応えはございますので、過度に下がっているわけではないと思っています。

加えて、スマホ以外の 4Q から 1Q にかけての動向といいますと、やはり光 IPS へのシフトは堅実に進んでおまして、中でも車載の伸びが顕著に見えました。それと IT に関しては、モニターは先ほど申し上げたとおりですが、ノート PC の回復も結構な手応えをつかんでいるといった状況です。それとタブレットも徐々にラビング IPS から IPS へのシフトが進んでいくという中で、手堅い状況であると考えております。

<質問者 5>

Q: まず1点目、為替の影響を整理したいです。この1Qは156円まで円安が進んで、YoYだとものすごい円安ですし、計画の145円対比でもかなりの円安が進んでいます。その為替の影響で、例えば計画比の上ぶれとか、YoYでのそれなりの増益に寄与していないのかと。御社はそれなりに感応度があると思うので、そこを整理していただけるとありがたいです。

A: 期初の概算としては1ドル当たり1円、円安ドル高に動くと、年間の営業利益で約3億円の営業利益のプラス寄与があります。

期初の予想が為替レート前提145円、1Qはこの3か月平均で156円でございますので、約10円の円安だったということですから、単純に考えると30億円の4分の1で7億円とか、それぐらいは1Qの営業利益の上ぶれに入っているだろうと大まかに推定はされます。ただ、明確にそこは1対1対応で把握はできませんけれども、そういうことは恐らく入っているだろうと思います。

Q: 足元は円高になってしまっているのに、1Qから2Qにかけて、その反動は出てくるという認識でいいですね。

A: ただ、もともと業績予想は上期145円で置いていますので、足元の為替は、われわれからすると当初の想定どおりになってきているのかなということですが、一方で、他の例えば先ほどから申し上げているような半導体とかディスプレイ、それから農薬でも、当初の予想対比でいうと、決して恐らく悪くないだろうと思っていますので、そこについては今、確定的なことは申し上げられませんけれども、その分、為替の分で目減りするという印象は実はあまり持っていません。

Q: 分かりました。2点目が、半導体材料の三次元実装材料（仮貼り合わせ材料）について、去年の説明会でご説明いただきましたが、現在の状況を教えていただきたいです。

HBMの4が出てくると思いますが、ハイブリッドボンディングが使われるという技術トレンドに変わっていくと思います。その際に御社の三次元実装材料がようやく伸び始めるのか、それともまだまだまだだいたい先の話なので、将来の期待という意味合いのほうが強いでしょうか。

A: 三次元実装材料ですが、今、市場のほうで量産に入っているのは、HBM4の前の世代の3、3Eの世代です。HBM4に関しましては、2026年ぐらいから量産に入るかなといった、そういう時間軸を考えております。

ハイブリッドボンディングは、一つの候補ではありますが、そこが実用化されるかどうかは、HBM4 の中でもいくつか世代があって、どこで量産に乗ってくるかというのは、もうちょっと先にならないと分からないかなといった状況でございます。

開発としては、それに対して耐熱性等の改善や新しいプラットフォームの開発というのは進めていまして、HBM4 でシェアを伸ばせるような、そういった研究開発は今まさに進めているところでございます。

HBM3E につきましても、ある一定のシェアは持っていますが、ボリューム感としても、今ちょうど伸びてきているといった、そういう状況にはございます。

Q：基本は HBM4 にならないと御社の三次元実装材料が大きく伸びないですか。

A：いえ、3E の世代もまだこれから世代としてはいくつか枝分かれして増えていくと思いますが、そこでも当社品は採用されているところもございますので、ボリュームはこれから増えていくと考えております。

<質問者 6>

Q：一つ目は、たな卸資産について、3 カ月前と 1 年前の対比で残高が増えているのですが、これは問題ないのか、コメントいただければと思います。

A：ご指摘のとおり、決算説明資料 10 ページの貸借対照表にございますように、たな卸資産は 1 年前と比べますと、大体 117 億円ぐらい増えています。そのうち農薬が大半です。

この内訳というのは、ある程度やむを得ないかなと思っている部分がありまして。まず、例えばグレーシア等、今伸びている材料について、2Q 以降に出荷が増えていくのも見込めているということ。あるいはインドの NBR という工場が本格的に立ち上がっていて、ここの稼働が順調に来ていますので、1 年前に比べるとその影響で在庫が少し増えているという部分があります。今後出荷が順調に進んでいくだろうと思っていますので、特段問題視はしていません。

それから、ベルダーという、旧来の名称でいくと NC-653 という新規の除草剤、この原体製造が今始まっています。登録が取れましたので、これからそういったプロセスに入っているわけですけれども。そういったものがあると、どうしても少し手前で在庫としては乗ってくるということはあるので、そこは一時的なものかなと思っています。

いずれにしましても、この水準感については、少しずつやはり抑制的に対応していくという方針には変わりありませんが、今申し上げたような事情があって、この数字としては増えているということはあります。

以上